工事検査ワンポイントアドバイス
建築工事における「モルタル塗り仕上げ外壁改修工事の工法選定」と「床改修における下地補修材の選定」について

工事検査通信　No.87
発行：　R6年5月14日
出納局　工事検査課



外壁のモルタル浮きを改修する場合、様々な工法があるようですが、どのように工法を選べば良いか教えて下さい。



はい。建築改修工事監理指針（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）によると、モルタル浮き改修工事は、１箇所の浮き面積の大きさと浮き代の大きさによって、工法が変わります。

１箇所の浮き面積が0.25㎡以上で浮き代が1.0mmを超える場合は、「アンカーピンニング**全面**ポリマーセメントスラリー注入工法」となります。

１箇所の浮き面積が0.25㎡以上で浮き代が1.0mm以下の場合は、「アンカーピンニング**全面**エポキシ樹脂注入工法」となります。

１箇所の浮き面積が0.25㎡未満の場合は、「アンカーピンニング**部分**エポキシ樹脂注入工法」となります。（資料１参照）



工法には、全面的に充填するものと部分的に充填するものがあるということですが、部分的に充填する工法についての注意点を教えて下さい。



「アンカーピンニング**部分**エポキシ樹脂注入工法」は、モルタル塗り仕上げ部の浮き部分のうち、通常レベルの打撃力によってはく落しない部分をアンカーピンとエポキシ樹脂で構造体のコンクリートに固定する工法で、浮き面積の拡大を阻止するとともに、大面積のはく落を防止する処置として有効な工法です。

しかし、エポキシ樹脂は部分注入されるため、改修工事終了後にエポキシ樹脂未充填の浮き部分が残存するので、浮き間隙内に雨水が溜まるような場合は採用できないことに注意して下さい。（資料２参照）

施工の注意点としては、モルタルにひび割れが発生している場合は、穿孔位置をひび割れから少なくとも5cm以上離れたところに位置決めを行うということです。ひび割れのそばに穿孔すると、穿孔の振動でひび割れが新たに発生し、モルタルが欠落するおそれがあるからです。（資料３参照）



アンカーピンには注入口付と付いてないものがあるようですが、注入口付のアンカーピンは、どのようなメリットがありますか。

注入口付アンカーピンは、アンカー機能の他に注入口を兼ね備えているので穿孔の数を減らすことができ、穿孔の工数や騒音の低減になります。（資料４参照）





わかりました。次に、床改修における床下地補修材について、具体的な補修材が指定されていない場合は、どの床下地補修材を選定すれば良いでしょうか。

はい。建築改修工事監理指針（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）では、改修目的、既存床の状態、既存床の撤去後の状態及び工期等を考慮して決定するとあり、塗り厚さと乾燥の目安を記した下地補修材の適用表があります。最近では、これらによらない材料もありますので、実績も考慮した上で監督員と協議して決定することなります。（資料５参照）





ありがとうございました。適切な改修工事の実施に努めていきたいと思います。

＊＊

●本日のポイント

建築工事におけるモルタル塗り仕上げ外壁改修工事においては、浮き面積及び浮き代によって工法や使用材料が異なる。このうち、部分的に充填する場合は、工法の採用及び施工における留意点を理解しておくこと。

また、床改修における下地補修材料は、適用表に記載がない材料を使用する場合、実績等を十分確認した上で決定すること。

【登場人物の設定】

〇福島県 出納局 工事検査課



：梁本(ﾊﾘﾓﾄ)検査員



：渋井(ｼﾌﾞｲ)検査員